

第47回ガラスおよびフォトニクス材料討論会 参加報告

東北大学大学院工学研究科応用物理学専攻

正井 博和

Report on the 47th Symposium on Glass and Photonics Materials

Hirokazu MASAI

Department of Applied Physics, Tohoku University,

第47回ガラスおよびフォトニクス材料討論会が、11月21日(火)～22日(水)東京理科大学野田キャンパスにて開催された。今回は、東京理科大学の安盛先生、大垣先生、そして、安盛研究室の学生さんが、2日間にわたり円滑な学会の運営にご尽力された。幸いにして、2日とも晴天に恵まれ、有料登録者186名(内、学生39名)、運営スタッフ・学生さんを含めると200人以上という多数の参加者の下、多数の研究発表と活発な討論が2日間にわたっておこなわれた。

本学会の討論主題は、以下の2つから構成されていた。

1. ガラスおよびフォトニクス材料の科学と技術
 2. 共催特別企画：ガラス産業連合会(GIC)・第2回ガラス技術シンポジウム
- 2.のガラス技術シンポジウムは、昨年から共催特別企画としておこなわれており、今回が2回目であった。そのため、学会発表内容は、一般口頭講演46件、一般ポスター講演12件に加えて、GIC依頼講演5件、GIC産官学研究紹介27件(内、企業9件)、そしてGIC環境

講演11件となっており、大学関係者だけでなく、企業の方が多数参加されているのが今年の討論会の特徴だと思った。

一般講演はA会場とB会場で並行して21日10:30～12:30と22日9:30～16:20でおこなわれた。初日21日の13:30～15:45はA会場を用いて、第2回ガラス技術シンポジウムがおこなわれた。シンポジウムのテーマとして、「環境とガラス」という魅力的で今後解決すべき重要なテーマであったため、シンポジウム会場のほとんどの席が埋まっていた。(写真1)会場の参加者は、近藤敏和GIC技術委員長長の挨拶の後におこなわれた、5人の先生方の講演を熱心に注意深く聞き入っていた。まず、環境課題という大きな観点で旭硝子株式会社の中尾泰昌先生が「ガラス産業をとりまく環境課題」というタイトルで講演された後、リサイクルという視点から東京大学の清家剛先生が「EUのガラスのリサイクル」というタイトルでEUでの視察を基にした講演をされた。その後、有害物質の規制に関して、産総研の赤井智子先生が、「欧州規制とガラス中の有害物質の測定」というタイトルで微量元素検出に関するガラス産業連合会環境技術部会での取り組みを述べられた。そして、環境負荷の大きい鉛に関して、日本電気硝子株式会社の山本茂先生が、

〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-05

TEL 022-795-7965

FAX 022-795-7963

E-mail: masai@laser.apph.tohoku.ac.jp

「鉛ガラスと鉛を含まない代替ガラス」、そして、HOYA 株式会社の蜂谷洋一先生が「光学ガラスの鉛代替」というタイトルで、それぞれ企業における脱鉛化のこれまでの取り組みと現状とを述べられた。有害元素を他の元素に複合的に置換するなど、環境と折り合いをつけながら、世の中にとって有用なものを作り出すことが、今の我々に課された責務だということを改めて感じずにはいられなかった。

ポスターセッションは、21日の16:00から17:40まで3会場に分かれておこなわれ、それぞれ、研究発表、ガラス技術シンポジウム関係、そして、研究室および企業の製品・技術の紹介という分類であった。それぞれの会場で活発な議論がなされていた。(写真2)

シンポジウム第1日目終了後には、懇親会が催され約90名が参加し、和やかな時間を過ごした。(写真3)

一般講演に関しては、個別には述べないが、講演終了後の質疑応答も含めて、内容の濃い発表内容だったように感じた。特に、若手の研究者が座長をされていることもあり、活発な質疑応答時間だったように思う。

著者は個人的に、学生が参加でき、かつガラス業界の最先端の研究が学べるガラス関係の学会はこの学会だ、と考えているので、来年以降は、さらに多くの学生の参加がなされるよう期待したい。特に、ガラス技術シンポジウムとの共催は、単に大学で学ぶ学生が企業の取り組みを学ぶ場としてだけでなく、ポスターセッションや懇親会の場を通して、ガラス企業の方と大学の学生や研究者が意見交換できる貴重な場であると考えからである。

最後に、今回の学会運営は、著者が直前にギリシャで開催された国際学会へ参加した直後だから余計にそう感じるのかもしれないが、本当に見事だといえる。WEB上での学会案内・申し込み、そして、当日の運河駅から会場までの親切な誘導等、本学会の成功は安盛研究室の方々のおかげであり、この場を借りて御礼申し



写真1 第2回ガラス技術シンポジウム会場風景



写真2 ポスターセッション風景



写真3 懇親会風景

上げる。

来年は、豊橋技術科学大学 逆井・松田研究室がお世話してくださることが決定しており、来年も今年以上の実りある学会となることを期待して、学会報告としたい。